テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　ジョブクラス編

黒魔道士クエスト

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

声を聞きし者

呪術士ギルド受付

ヤヤケ ： ◇◇◇ ◆◆◆。貴方を待っていました。至急、確かめてもらいたいことがございます。
100年もの間、「マラサジャ収容所」に幽閉されている罪人が、「ナルザル神の御言葉を聞いた」などと騒ぎだしたのです。
「貴方が邪なる妖異を倒し、「シャトトの魔石」を持ち帰る。その魔石と引き替えに、我を牢より解放せよ。」
……という、ふざけた内容でした。
まったく呆れたものです……。お告げとやらの真偽を確かめてやる義理も、罪人を牢より解放してやる道理もないというのに。
その罪人の名は「ククルカ・タタルカ」。己を、古に滅びた「黒魔道士」などと称する不届き者です。
おおかた、禁書のまじないに取り憑かれた、愚鈍な術士でございましょう。そのような輩の言うことなど、信じるに値しませんが……。
ナルザル様の名を出したからには、看過できません。それに、貴方という冒険者の存在についてだけは、真実となりました。
……もう、おわかりですね？
東ザナラーンの「ハイブリッジ」へ向かいなさい。異界と現世を繋ぐ空間の裂け目、「ヴォイドクラック」から
現われる妖異を倒し、その血を大地に刻むのです。
ククルカの言葉によれば、そのようにすることで「シャトトの魔石」が手に入るとのこと。
「シャトトの魔石」とは、古い寓話に度々描かれる宝石。そもそも、存在するかどうかさえ、怪しい石なのですが……。
真相がどうあれ、務めを果たしたなら、この「アルダネス聖櫃堂」へ、まっすぐお戻りなさい。よろしいですね？

？？？？ ： ……冒険者よ……。
カザグ・チャー ： 吾輩は、誇り高きアマルジャ族の術士「カザグ・チャー」。言語を解するならば、其の武器、収めよ。
吾輩、汝に危害を加える所存は無し。
……委細承知。其が、同志ククルカの告げし預言の者か。
今しがた、此の地に流るる「地脈」に、妖異の生き血を捧げし者がおる。……其は、汝に相違あるまい？
預言か導きか、それは術士に問うがよい。吾輩は務めを成すのみ、汝に「シャトトの魔石」を与えん。
そして、其の石の力が如何なるものや。それは、汝自身に問うが良い……思索生知。

ヤヤケ ： おかえりなさい、◇◇◇ ◆◆◆。魔物を倒してきたようですね。それで、「シャトトの魔石」は手に入ったのですか？
むむ……確かにこれは……寓話や古の魔道書に記される、「シャトトの魔石」の記述と一致します。
それに、このほとばしる魔力……。これはいったい……？
架空の存在とはいえ、「シャトトの魔石」はナルザル神の恩寵を受けし術士が持つとされるもの。
……偶然にしては、できすぎています。この件について、詳しく調べる必要がございましょう。
◇◇◇ ◆◆◆。無論、貴方も無関係ではございませんよ？
ククルカが、獄中にいながらにして、外の者に指示を出したという可能性もあります。そう、貴方のような冒険者を使って……。
ただちに、緊急の会合を開きます。導師を招集しますので、ここでお待ちなさい。

？？？？ ： それには及ばん。

ヤヤケ ： 大罪人ククルカ・タタルカ……！　なぜここに！　釈放の許しがおりるはずが……！

ラライ ： 無礼者！　大魔道士ククルカ様と呼べ！　100年の瞑想を経て、ナルザル神の御言葉を授かりし御方であるぞ！

ククルカ ： ……そなたらと違い、聞き分けがよい看守だった……　と、答えればよいか？
言ったはずだ……我が聞いたは、ナルザル神のお告げ。神の御言葉を疑おうとは、さて、どちらが罪人であろうな？

ヤヤケ ： 詭弁を……。お気をつけなさい、貴方の口は災禍の源となりましょう。

ククルカ ： ……災いをもたらすは、我が口にあらず。
神ナルザルは、我に告げた。間もなく「ヴォイドゲート」の封印がほどかれる、と……。
「ヴォイドゲート」開かれしとき、大気は邪気に満ち、古の妖異が甦らん……。これを閉ざすは「シャトトの魔石」を授かりし者……。
預言に示されし冒険者……　◇◇◇ ◆◆◆、そなたである。
その「シャトトの魔石」……「黒魔道士の証」を携え、「ヴォイドゲート」を閉ざすための「カギ」を集める旅に出るのだ。

ヤヤケ ： お待ちなさい！　そのような勝手が許されると……。

ククルカ ： 黙れ、小娘。貴様の耳は、飾り物か？
導師を名乗るならば、知らぬとは言わせん。ナルにもザルにもあらぬ異界、妖異のはびこる「ヴォイド」の存在を。
「ヴォイド」のカが強まり、その干渉に「界」を隔てる壁が耐えきれなくなったとき、
空間の裂け目が広がり、「ヴォイドゲート」が開かれる。
これを閉ざすことができるのは、古の破壊の力「黒魔法」をもって他にない。

ヤヤケ ： 「黒魔法」……！

ククルカ ： ◇◇◇ ◆◆◆。その「シャトトの魔石」は、黒魔法を操る術士の証。破壊のカを導く者として、「黒魔道士」を名乗るがよい。
ヴォイドゲートを閉ざす、ひとつめのカギは、既にその身に宿る……。
そのカギ……「黒魔法」が、そなたの身に馴染むまで、いましばらくの時間を要するであろう。
この後のことは、「ミルバネス礼拝堂」にて、我が使い「ラライ」より話を聞くがよい……。
「破壊の力」を恐れるでない。そなたなら、そのカを従え、必ずや使命を果たすことができるであろう……。

ラライ ： ククルカ様は、礼拝堂の奥にて瞑想を続けています。しばらく黒魔道士の経験を積んでから、ここを訪れなさい。
私が師に代わりて、あなたの務めをお伝えしましょう。

時を告げし血

ララィ ： 黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆。よくぞ参られました。
得体の知れぬカの目覚めに、恐れをなして逃げ出すかと思いましたが……。なかなかどうして、神経が図太いご様子。
「ヴォイドゲート」を閉ざすがため、新たなカギを手に入れる旅の支度が、整ったようですね。
……では、ククルカ様からのお言葉をお伝えしましょう。
……。
「ヴォイドゲート」を閉ざすための……新たなカギ…… 次なる「黒魔法」を会得せよ……。
南ザナラーン「サゴリー砂漠」の南東にて…… 「ヴォイドクラック」から現れた妖異を倒し、大地にその血を刻みこめ……。
その血は、大地を脈々と流れるエーテルを伝い…… 荒野にて待つ、いまだ見ぬ友に「時」を告げるだろう……。
務めを果たしたとき、「黒魔道士の証」に光が満ちる。破壊を知りて、正しきを導く光……
「ヴォイドゲート」を閉ざすカギが、そなたに刻まれよう。
……以上です。あなたの務め、理解いたしましたか？

ララィ ： よくぞ務めを果たされました。ですが、目覚めた黒魔法がその身に馴染むまで、いましばらくの時間を要るはず。
しばし鍛錬を積み、また私を訪れなされよ。そのときまで、さらばでございます、黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆……。

異郷なる友

ラライ ： 黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆。二度の務めを果たし、「黒魔道士」に課せられた重き使命に相応しき面構えになってきましたね。
「黒魔道士」という存在を知る者は魔法を修める者の間でも、そう多くはいません。伝承上の存在として、僅かに文献が残されている程度。
けれど、礼拝堂の書庫に眠る禁書の端々には、複雑な暗号で隠された「黒魔法」に関する秘密が記されていたのです。
100年前に、それを読み解いた者こそ、我が師ククルカ様。元来、「黒魔道士」とは、ナルザル神のお告げを授かり、
「ヴォイドゲート」を閉ざす使命を帯びた者なのだとか。
けれど……ご存知のとおり「黒魔法」は強大な破壊の力。力というものは使い道を誤れば、途方もない悲劇を生み出しましょう。
エオルゼアから「黒魔道士」が消えたのも、きっと……。我が師はただひと言、「過ちを繰り返してはならぬ」と
おっしゃっていましたが……。
黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆よ。ククルカ様より、次なるお言葉をいただいております。
強大な破壊の力を使う者として、心してお聞きなさい。
……。
そなたが大地に捧げた血に応えるべく、3種族の民が、このザナラーンの大地に参じた……。
彼らは、古に途絶えた「黒魔法」の在処を継ぐ者……　そなたの持つ黒魔道士の証「シャトトの魔石」に、新たなる輝きを与えん……。
力を導く者たる証を示せ……　さすれば、異郷なる民、そなたを支える友とならん。
東ザナラーンの「バーガンディ滝」にて待つ、アマルジャ族「カザグ・チャー」を訪ねるのだ……。
……以上です。アマルジャ族といえば、我らウルダハの仇敵。きっと、何か深い理由があってのことでしょう……。
黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆。お行きなさい、「ヴォイドゲート」を閉ざす使命のために。

カザグ・チャー ： 一別以来。術士ククルカに導かれしミコッテよ。
かねて、汝に託した「シャトトの魔石」。吾輩と汝を重ねて巡り合わせた。大願成就よ。いざ時機到来……汝、其の尊き名を聞かせよ。
◇◇◇ ◆◆◆。吾輩は、アマルジャの術士「カザグ・チャー」。曽祖父より受け継がれし命に従い、この地に馳せ参じた。
遠路遥々、恐悦至極。ウルダハの者に出会えば狙われる身上ゆえ、このような場所に、身を隠す羽目と相成っている。

ドゾル・メロック ： へぇえッェ、アンタがッァ……　まぁまぁ悪くねェなッァ！　お手並み拝見させてもらうぜッェ！

メディカント269 ダ・ザ ： アマルジャ族　カザグ・チャー　見たー目　こわーい。けど　やさーしい。なかよーく　しよーねー？

カザグ・チャー ： このふたりは、イクサル族の「ドゾル・メロック」とコボルド族の「メンディカント269 ダ・ザ」。
吾輩と同じ使命を、一家眷族より継ぎし者たちなり。
歪み極まりし地脈に血を捧げし者へ「シャトトの魔石」を授け、目覚めの試練を課すべし。
其の者に、一家眷族に継がれし知を託す事が、吾輩の務め。
汝、背負いし使命を果たすがために、其の身を捧げる覚悟であろう。
西ザナラーンの「物言わぬ王」へ向かうがよい。かの地の「ヴォイドクラック」より現れる妖異を討ち、その血を大地に刻み込むのだ。
「物言わぬ王」には、吾輩たちも向かう手筈。心配無用、彼の地で落ち合うとしようぞ。まずは、「ドゾル・メロック」と合流せよ。
試練を乗り越えし其の時。「シャトトの魔石」は、新たな輝きに満ちようぞ。

ドゾル・メロック ： こいつだッァ……この「ヴォイドクラック」を、アンタの力で閉じてみてくれよッォ！！
終わったら、教えてくれよなッァ！！

ドゾル・メロック ： へぇえッェ、カザグ・チャーが言うだけのことはあるッゥ！　◇◇◇、見事だったぜッェ！
「メンディカント269 ダ・ザ」の様子も、見てくれッェ！

メディカント269 ダ・ザ ： カザグ・チャー　言ってたよねー？　「ヴォイドクラック」　みつけたー！　さあ　閉じてみよー！

メディカント269 ダ・ザ ： すごいすごーい！　さすだね　◇◇◇はー？　カザグ・チャーの　言ってたとーりー！
カザグ・チャーに　終わったって　つたえてねー！

カザグ・チャー ： 流石は黒魔道士◇◇◇。見事な手並であった……。いざ、「バーガンディ滝」へ戻ろうぞ。

カザグ・チャー ： ……黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆。意気軒昂たる姿、やれ、戻ってきたか。
汝の持つ「シャトトの魔石」の輝き、光輝燦然。其の眩さ……古に途絶えし「力の導き手」たる証。
今こそ、術士ククルカの言葉、真と認めん。
曽祖父は、一家眷族に告げた。「魔の道を知る4名の者、荒れ野にて出会いし時……
古の破壊の力もて邪なるものを封じ正しき道を切り開かん」
「古の破壊の力」は、汝に目覚めし「黒魔法」。「邪なるもの」は、異界「ヴォイド」より来たる「妖異」。
程なく「ヴォイドゲート」の封が解かれよう……。使命に従わんとする汝の覚悟、しかと見届けた。
吾輩は、ここに誓わん。曽祖父より、一家眷族に伝えられし知を、汝に授けん。旧怨を捨て、力合わせて大望を成そうぞ。
寓話などではなかったと……　古の術に憑かれた虚け者と嘲られし、曽祖父の悲願を果たすがため……。
汝の力と「ヴォイドゲート」の結びつきや深し。封が解かれし其の時……　汝の身に或いは、異変が起こるやもしれぬ。
鍛錬を積み、目覚めし其の力を汝がものとし、ふたたびこの地を訪ねよ。吾輩より、次なる使命を授けることになろうぞ。

いざないの霧

カザグ・チャー ： 黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆。ドゾル・メロックが、汝に話があるという。

ドゾル・メロック ： よッォ！　黒魔道士サマッァ！　「ヴォイドゲート」を閉じるためのカギ……　黒魔法の調子は上々かいッィ！？
フッゥーン……サスガだなッァ！　アンタの魔力につきまとう、「妙～な気配」に勘づいてるんだろッォ！？
そいつは「ヴォイドゲート」から滲み出る「妖霧」だッァ！　黒魔法に目覚めたアンタの魔力にッィ、
ヴォイドの気配がッァ、引き寄せられてやがるンだッァ！
とうとうッゥ、ゲートの封印が綻び始めたみてェだなッァ。黒魔法とヴォイドゲートはッァ、切っても切れねェ仲ッァ。
放っておけばッァ、引きずり込まれちまうかもなッァ！？
……ッとッォ、ビビるこたぁねッェ！！　その程度の「妖霧」ならッァ、黒魔道士のアンタがッァ、
次の「カギ」を手に入れればッァ、追っ払えんだろッォ！
ンでもってッェ、その方法ならッァ！　このドゾル・メロックサマが教えてやらッァ！
アーッァ、ゴホンッゥ。いいかッァ、よーく聞けよッォ？
昔むかーしッィ……　黒魔道士ってのがッァ、数多く存在していた時代ッィ。中でもッォ、特に有能な黒魔道士がいたッァ……。
そいつはッァ、黒魔法が、悪用されるのを案じてッェ、自分の認めた者だけがッァ修得できるようッゥ、
「まじない」をかけてッェ、封じちまったそうだッァ。
黒魔法はッァ、エオルゼアの各地に散らされたッァ！　ほとんど忘れられちまってるがッァ、黒衣森の奥深の
「苔むした石塔」にはッァ、今も刻まれてるッゥ。
こいつこそッォ、妖霧を退ける新たなッァ「カギ」ッィ！　使命を負った黒魔道士がッァ、「証」に導かれた時ッィ！
まじないからッァ、黒魔法が解き放たれるんダッァ！！
……こいつはよッォ　スゲー術士だったッァ、オレのッォひいバアちゃんがッァ　一族だけにッィ伝えたことなんだぜッェ？
けどよッォ、呪術を極めるためにッィ　宿敵のアマルジャ族とッォ、手ェ組んだッァてよッォ、
……巣をッォ、追われちまったんだッァ……。
ひいバアちゃんが残したッァ「言葉」も教えてやるッゥ！　「魔の道を知る4名の者ッォ、荒れ野にて出会いし時ッィ
古の破壊のカもて邪なるものを封じ正しき道を切り開かん」
この言葉を聞いたらッァ、居ても立ってもいられなくなってッェ　ここザナラーンに来ちまってたッァ。
アンタッァ、イクサル族だとかッァ、関係なくッゥ、オレたちの話を聞いてくれたよなッァ！
その気概ってヤツに懸けてやるッゥ！　力を貸すぜッェ！
グリダニアの「ウルズの森」にッィ、行ってみなッァ！　石塔の近くはッァ、凶暴な魔物がウロついてるッゥ！
だからッァ……　おい、ダ・ザッァ！！

メディカント269 ダ・ザ ： ぼくーもー　◇◇◇のー　お手伝いー　すればいいんだーねー？

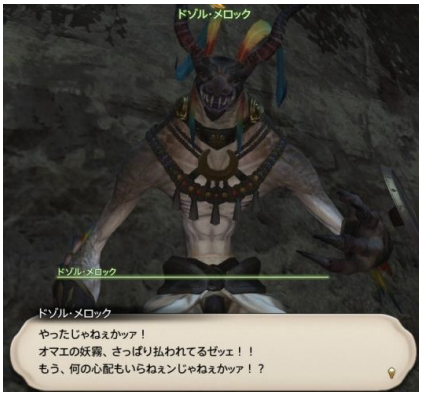
ドゾル・メロック ： そうだッァ！　森に入れないオレサマの代わりニッィ、◇◇◇のこと、頼んだからなッァ！！
さあ！　これでオマエもッォ、安心だろオッォ！？　行ってくるよなッァ！？

？？？？ ： 我、古の魔石を通じ、あらたなる「黒魔法」を授けん……。されど、その前に汝に試練を与えん。
汝惑わせし邪なる妖霧、これよりここに顕現す。
妖霧の邪なるいざない、汝が黒魔法で断ち切りしとき、我、汝を正しき黒魔法の使い手と認め……　古の知識を汝に授けんとす……！

メディカント269 ダ・ザ ： んんー？　ほんとーだー！　なんだかー　妖霧　が　濃くなってきたよー？　悪い奴　きそうだ　ねー！
よーうむーからー　妖異がー　生まーれるーよー　黒魔法で　しょうめつ　さーせてーねー？
なーんだか　こーわそーにー　なったーねー？　気をー　つけーよー　◇◇◇！
妖異のー　かーずが　ふーえるよー！　ちょーっとー　押されーてる　かもねー？
こーこがー　がんばりー　どーころ　よー？　◇◇◇ー　負けなーいでー！
やったねー　◇◇◇ー！　妖霧をー　払いのけたよー　さっすがー！
じゃあー　ドゾル・メロックの　ところにー　帰ろー？　「バーガンディー滝」だねー！

ドゾル・メロック ： やったじゃねぇかッァ！　オマエの妖霧、さっぱり払われてるぜッェ！！　もう、何の心配もいらねぇンじゃねぇかッァ！？
よぉおしッィ、カザグ・チャーにもよッォ、戻ってきたことォッ、オマエが教えてやれよなッァ！！

カザグ・チャー ： 戻ったか、祝着至極。無事、妖霧も打ち払えたと見える。新たな「黒魔法」のカも、汝のうちに宿ったはず！
其の力、使いこなし我が物とせよ、黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆よ。さすれば、その時こそ、汝が前に新たな道開けん。



道を求むる旅

カザグ・チャー ： 熱烈歓迎。よく来た、黒魔道士◇◇◇。「メンディカント269　ダ・ザ」が汝を呼んでいる。話を聞きにいくがいい。

メディカント269 ダ・ザ ： 黒衣森　石塔かーら　あたらしーいカギ　できーたね！　すごーい　すごーいや！　やーっぱり　きみー　「伝説」の……！！
ぼくーの　ご先祖　ダ・グかーら　伝わる「伝説」とーり。……ぼくー　ザナラーンから　きーた。
魔の道を知るー　4名の者　荒れ野にーて　出会いーし時　古のー　破壊の力によってー　邪なるもーのを
封じー　正しーき道をー　切り開かーん……。
そー　すーっかり　同じー　言葉。ふたりと　同じー　言葉　伝わーって　導かーれて　ここに　ぼくー　きーた。
今かーら　100年前　コボルド族　筆頭術士「ダ・グ」　古のー　術書　読み解いーた。
ダ・グ　ぼくーの　ご先祖　とーっても　えらーい。
ダ・グ　「筆頭術士　オ・ゴモロ　離れ　いーけない」　掟を　破ってー　故郷ラノシア出てー　伝説　追ったー。
ダ・グ　掟破ったー　「裏切り者」……。
ダ・グ　そそのかしーた「伝説」をー　ふーかく　知ろーとすーる者　いーなかった。でーも　ぼくーは　こーの伝説　気になっーた。
なにーか　しーなきゃ　いけない　気がしーて……！　ラノシア　飛び出しー　ザナラーンに　きーた！　まるーで　ダ・グ　同じよーに……！
ぼくー　かれーら　伝わーる　言葉　どーり　きみー現れー　ぼくー　こーれ　運命　思ったー。
でーも　ぼくー　ふたりみーたいに　知識　なーい。
でーもでも　コボルド族　誇り　おたかーら　見つけ出すー　勘　あーる！　きみー　手助けー　させーて　ほしーい！
ダ・グ　100年前　ラノシア　去る時　たくーさん　「ガラクタ」　残しーた。
でーも　ホントーは　ガラクータじゃないー　見てー！
ダ・グ　残しーた　こーの石版。……きみー　「シャトトの魔石」　輝き　受けーて　文字　浮きーだし　きーたんだ！
……魔石のー　輝き　にーて　我が　言葉を　解くー　者あーり……すなわーち
ヴォイドゲートの　封印がー　放たれーる時　近し……。
妖霧　退けーる　「装束」の所在　ここーに　示さーん。力導く者　まとーいて　邪なるもーのを　封じー
正しーき道をー　切り開かーん……！
……あーの「ヴォイドゲート」　閉ーざす　ため　妖霧　退けーる　とくべーつ　「装束」　必要　みーたい。
こーの石版　そーのありーか　記されーてーる　よーだね。
4つ　ぼくー　わかーる　場所　書いーて　ある。まーずは　さいしょー　3つ　あつめてきてー？
でーもー　なんだーか　条件　あるみーたいー！

カザグ・チャー ： 話によらば、黒魔法と縁深い術士である吾輩たちの血を、「ヴォイドクラック」に刻むのだという……。
吾輩の血、汝に託す……遠慮無用、持っていけ。

ドゾル・メロック ： オレサマの血もッォ、いるみてぇだよなッァ！　装束とやらッァ、手に入れるためにッィ！
ほら、持ってけッェ、遠慮すんじゃねえッェ！！

メディカント269 ダ・ザ ： 最後ー　ぼーくの　血も　あーげるー　きーみの　こーとー　信じてーる　かーらー　がんばってーねー？
でーもー　無理するー　だーめーだよー　いくとーこ　全部　こわーい　場所だーからー　くれぐれーも　いのち　だいじに　よー？

メディカント269 ダ・ザ ： さーすがー　◇◇◇ー　ぼーくー　取ってくーると　信じてたーよー？

ドゾル・メロック ： あの伐採地ッィ、まっさか突破しやがるとはなッァ！　大したモンだぜッェ、黒魔道士サマよッォ！？
オレサマがッァ、見込んだだけのことはあるぜッェ！！

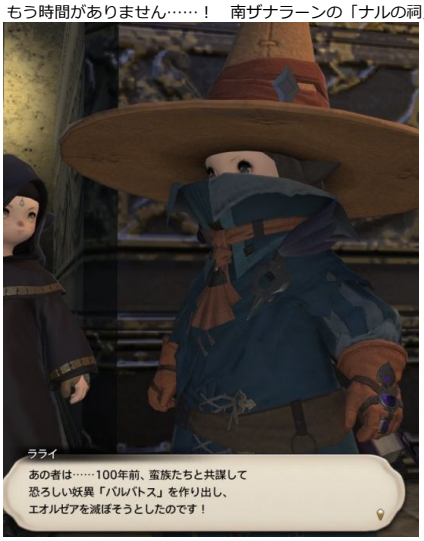
カザグ・チャー ： 延頸鶴望……汝の帰りを待っていた。4つ目の装束の場所、判明している……。場所は東ザナラーンの「ザルの祠」だ。
一意専心。汝は「ヴォイドクラック」より現れる妖異どもと戦い、流した己の血を、大地に刻まねばならぬ。

カザグ・チャー ： エオルゼアに散る4つの装束を集めたか。……されど最後の装束の行方、未だ判明せず。
刑故無小。吾輩たちの努力不足、慙愧に堪えぬ。
暗中模索……汝不在の折、ダ・ザが石版より読み取り、最後の装束隠されしは、「至聖所」なる地とまではわかった。
我ら、その名に皆目見当がつかぬ……五里霧中。
されど不撓不屈、ダ・ザはこうも石版より読み取れり。装束に相応しき力、身につけし時、「聖なるほこら」への道はおのずと開かれる……。
石版の言葉を信じ、我ら最善を尽くす。汝、それまで鋭気を養い、黒魔道士として精進せよ。「ヴォイドゲート」が開く日は、ほど近い故に。

黒魔法の導き手

カザグ・チャー ： ◇◇◇、喜色満面の体。見事、4つの「装束」を其の手中に収めた。大儀也。
残されし時間は、極僅か……。されども、ダ・ザの祖先が残せし石版は語る。全ての「装束」揃わぬ内に動き出すは、愚の骨頂。
吾輩も「至聖所」に関して探るべく、曽祖父の残せし「研究記録」を紐解いたが、無念也。
力及ばず五里霧中、然るべき記述を見つけること叶わじ。
唯一、気に止まりしは……　曽祖父の記録、100年前を最後として途切れし点。「霊廟にて、破壊の力を呼び覚さん」なる一文……。
破壊の力と呼ばれし「黒魔法」……　されども「黒魔法を呼び覚ます」とは如何なる暗示か……。
……何と？　ダ・ザ及びドゾル・メロックの祖先らも同様、100年前に、其の行方をくらませた……と言うのか？
……嗚呼、この胸騒ぎは……一体全体……　過去……100年前に、何やら変事が……？
虫の知らせか、凶事の兆しか。されど我ら、もはや打つ手無し。哀訴歎願。
最後の装束封じられし「至聖所」への道、時至らばおのずと開かれると、石版には記されり。
されど焦心苦慮、手を拱き座して待つわけにもいかぬ。
「至聖所」に関し、古巣の者共へ問う事ありしと、ドゾル・メロックも、ダ・ザも出立したが……雪案螢窓。
彼らも己が領分で、励んでいる。粉骨砕身。
事ここに至らば、汝にも頼みあり。吾輩たちと汝を引き合わせし、かの預言者を訪ねよ。
彼の者より得られるもの、何かあるやもしれぬ故。

ラライ ： 大変です！　ククルカ・タタルカが姿を消しました！　急ぎ、あの罪深き者を追ってください！
あの者は、ナルザル神の代弁者などではない……！　100年前に、とんでもない罪をっ……！！
……ああ……実は数日前から、ククルカの姿が見えず心配になった私は、言いつけを破って、彼の部屋へと入りました。
そこで私は、大変な事実を知ってしまったのです。かつて優秀な呪術士であったククルカ・タタルカが
何故に「大罪人」とされるに至ったか……そのすべてを……。
あの者は……100年前、盗族たちと共謀して恐ろしい妖異「バルバトス」を作り出し、エオルゼアを滅ぼそうとしたのです！
しかし彼の企みに気づいたナル・ザル教団によって、まだ不完全であった妖異「バルバトス」は、
「ヴォイドゲート」の中へ封じられます。
そして、ククルカも捕まり「大罪人」として生きることも死ぬことも叶わぬといわれる牢獄……
「マラサジャ収容所」に100年間、幽閉されたのです。
ですが……そのような事件があったにもかかわらず、公の記録に詳細が残されることは、ありませんでした。
一部の禁書にのみ記され、それは今ククルカの手に……。
黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆……　あの者が残した最後の言葉を、お伝えします……。
4つの黒魔法と4つの装束、4種族の血が集いしとき……　「ヴォイドゲート」より、最後の「破壊の力」が目覚めるであろう……。
真実は、黒魔法こそ「ヴォイドゲート」を開くためのカギ！　ククルカは私たちを利用して黒魔法を蘇らせ、
妖異「バルバトス」を呼び覚まそうとしていたのです！
ああ……私が愚か者だったのです。あの者の強大な魔力と、巧みな甘言に乗せられて……。
どうか、どうか……ククルカ・タタルカを止めてください！
もう時間がありません……！　南ザナラーンの「ナルの祠」へ、急いでください！！



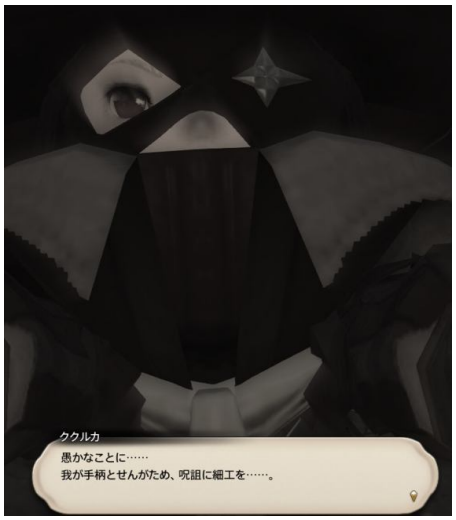
ククルカ ： さあ、新たなる黒魔道士よ！　その破壊の力で、我が罪過を裁いてみせよ！！
くっ……ヴォイドゲートが開きすぎたか……。他の妖異まで出てくるとは……！
頼む……新たなる黒魔道士よ……！　お前の魔力でヴォイドゲートを破壊するのだ……

ドゾル・メロック ： ◇◇◇を炊きつけてッェ、オレらを騙した呪術士ってのはッァ、テメェかッァ！？
どういうことかッァ、キッチリッィ、説明しやがれッェ！！

ククルカ ： そなた……！　もしや、ハテリ・メロックの……？

ドゾル・メロック ： ……なッァ！？　アンタッァ、ひいバアちゃんを知ってるのかッァ！！

ククルカ ： カジブ・チャーの子孫に……。
そなたは、ダ・グの血をひくものか……　……ああ、よく……知っておるぞ……。
……そして、黒魔道士◇◇◇……　よくぞ、「バルバトス」を鎮めてくれた……。
今こそ……100年前の真相を語ろう……。いや……どうか、聞いてくれ……。
100数年前……我は、古の書に記されし破壊の力……　「黒魔法」に関する記述を見つけ、これについて研究を始めた……。
始めは……純粋な興味だった……。何故、古き時代に存在した黒魔道士が消えたか……
何故、黒魔法が……かたくなに隠され続けてきたか……。
調べるうち……　我はやがて、その巨大な魔力、可能性に魅せられ……　黒魔法を蘇らせるための研究に、のめり込んでいった……。
……我は、認められたかったのだ。誰にもできぬ偉業を成し、永遠に色褪せぬ名声を欲した。
しかし……黒魔法の研究は、難航した……。行き詰まり、諦めかけたとき……　そなたらの祖先と出会った……。
「シャトトの魔石」、魔力を読む力、古の「装束」……　それぞれが持ち寄った知識のおかげで、
研究は飛躍的に進み、我らは夢中になって研究を続けた。
そなたらの祖先も、認められたかったのかもしれぬな……。ああ……何故あのとき、我らは互いに互いを
認めようとしなかったのか……。
秀でた才知と分析を、戯れ言と笑われたアマルジャ族……。変わり者ゆえ、追われるように故郷を出たイクサル族……。
海で隔たれた僻地に、縛られ続けたコボルド族……。
彼らと共に……長き研究を経て……　ついに、「黒魔法」の最終奥義を復活させる、
儀式を行うときがやってきた。そのとき、我は……。
愚かなことに……　我が手柄とせんがため、呪詛に細工を……。
……その結果、破壊の力は暴走してしまったのだ……！　そなたの祖先らは、エーテル化して混ざり合い、異形の魔物と化してしまった……！



カザグ・チャー ： 然らば、先の妖異は、もしや……！

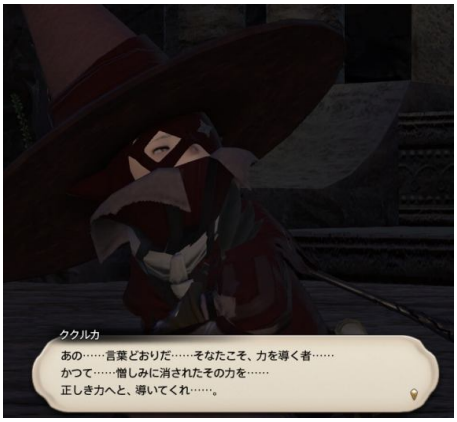
ククルカ ： 我は、魔力のすべてを振り絞り……　妖異と化したそなたらの祖先を、この「ヴォイドゲート」へ封じ込めた。
……歪んだエーテルに触れた我が魔力も、いつ暴走するとも限らぬ。
ウルダハへ戻り、適当な呪術士の記憶を操って罪状を作り上げ……　我は、自らを牢へと閉じ込めた……。
そして、待ち続けた……　妖異と化した彼らを、浄化できる者が現れるのを……
破壊の力を従え、黒魔道士の使命を果たそうとする者を！
……すまなかったな……。

ドゾル・メロック ： ……ンッ、ンなことッォ……　言われたってよッォ……。

ククルカ ： ……我は……もう、長くない……その前に……。

メディカント269 ダ・ザ ： そーれはー！？　さがしてーた　5ーつ目　「装束」！？

ククルカ ： 「至聖所」とは、最後のまじないの刻まれた場所……　この「ナルの祠」の、もうひとつの呼び名……。
見事であった、◇◇◇……　どうやら、この戦いを経て開眼したようだな……
我らが見ることのできなかった、最後の「黒魔法」に……！
あの……言葉どおりだ……そなたこそ、力を導く者……　かつて……憎しみに消されたその力を……　正しき力へと、導いてくれ……。
ああ……　今こそ……ザル神の御許へ……。

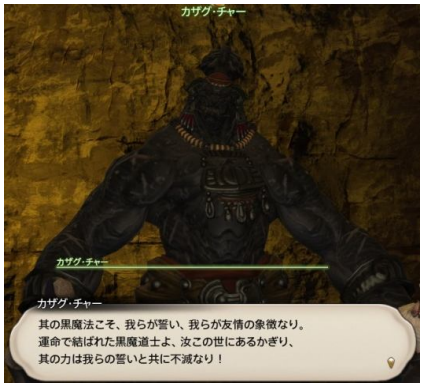


メディカント269 ダ・ザ ： 終わったー　ねー？　ぼーくたちーは　ぼーくたちにー　できることやってー　あの人たちー　を　救えーたよねー？
ご先祖さーま　かーら　伝わってきーた　伝説もー　こーれで　おしまいーっ！　ちょーっと　さびしーいねー？
でもー　離れ離れにー　なってーもー　ぼーくたちー　ともだーち　だーよねー？　やーくそーくだよー？
じゃあーねー　黒魔道士◇◇◇！　いーつかー　ラーノシアーにー　あーそびに　きーてねー！

ドゾル・メロック ： これでよッォ、100年前の因縁ってヤツがッァ！　プッツリと全部終わっちまったわけだナッァ！？
なあッァ、ひいバアちゃんたちはよッォ！　あのククルカってヤツをッォ、もう許してるかッァ？
どうなんだろうなッァ……ちょっと気になるゼッェ！！
でもまッァ、これで全部終わりッだッァ！　オレたちにできることはッァ、何もねぇよッォ！！
……なかなか楽しかったゼッェ、お前と付き合うのはッァ！　きっとひいバアちゃんたちもよッォ、
こんな気持ちだったんだろうと……思ったゼッェ！！
じゃあッァ、またなッァ、黒魔道士サマッァ！　こんな時代だしよッォ……　お互い生きていたら、また会おうゼッェ！！

カザグ・チャー ： ……諸行無常。ククルカにも、抱えていた苦しみがあった……！　吾輩たちには計り知れぬ、100年分の苦しみが。
されど温良恭倹。大望果たせし罪人は、其の罪を贖い今果てた。ならば、せめて母なる世界に抱かれ、逝くことを願わん。
……彼の者の眠りを妨げる気は無い。「バーガンディ滝」に戻ろうぞ、◇◇◇。

カザグ・チャー ： ……一切合財、これにて決着。吾輩たちを巡り合わせた奇縁妙縁も、かの地「ナルの祠」にて結末を迎えた……。
思えば、伝説に導かれ、汝と初めて会ったあの日には……　このような日が来ることなど、微塵も想像せなんだ。まさしく、奇想天外。
されど僅かな後悔もなし。ドゾル・メロック、ダ・ザ、そして汝。汝らと出会えたことこそ、運命に与えられた吾輩の宝だ。
汝のおかげで、先祖の宿願も果たせた。虚心坦懐。今の吾輩の心は、ザナラーンの青空の如く澄んでいる。
偉大なる黒魔道士◇◇◇ ◆◆◆よ。吾輩は汝と終世の同胞であらんことを、ここに誓おう。
刎頸之友。我らの友情が、永遠たらんことを。
其の黒魔法こそ、我らが誓い、我らが友情の象徴なり。運命で結ばれた黒魔道士よ、汝この世にあるかぎり、
其の力は我らの誓いと共に不滅なり！



登場人物

ククルカ・タタルカ：黒魔道士

ヤヤケ：呪術士ギルド受付

カザグ・チャー

ドゾル・メロック

メディカント269 ダ・ザ

ラライ